

様式 2

学校名（姫路市立糸引小学校）

実施日：6月29日（2校時）	
領 域：教科（国語科）	
取組名：違いを知って認め合い、力を合わせよう（資料「光村図書 国語2年上」）	
対 象：2年生	実施場所：教室
ア ねらい <ul style="list-style-type: none"> ・ 比喻表現に着目しながら、スイミーが元気を取り戻していく気持ちの変化を読み取ることができる。 ・ 違いを個性と捉え、尊重し、互いを認め合える受容的な態度を育てる。 	
イ 指導内容（指導略案）や取組の概要 全10時間の第2次以降の各時間において多文化共生の視点を取り入れて授業を行う。 第2次 <ul style="list-style-type: none"> ・ スイミーの特徴が分かる言葉に線を引かせ、人物像を読み取らせる。 ・ まぐろと魚の大きさが比較しやすいように挿絵を活用したり、比喻表現に着目させたりして大きさ等の違いに気付かせる。 ・ 第3場面を読み、それぞれの生き物がもつ美しさに触れ、スイミーが元気を取り戻していく様子と気持ちの変化を読み取らせる。 	
第3次 <ul style="list-style-type: none"> ・ 互いの感じ方の違いを認め合いながら、お互いに感想を言い、考えを深めさせる。 ・ 感じたことや考えたことをまとめ、1年生へスイミーを紹介する文章を書かせる。 	
ウ 連携先：家庭	
エ 連携にむけての取組 学級通信を通じて、学習の進捗状況とともに学習のねらいを示し、家庭でも個性を尊重し、互いを認め合えることができるよう啓発する。	
オ 組織的な取組とその点検・評価を行ううえでの工夫点 <ul style="list-style-type: none"> ・ 校内研修で、話合いの質を高めるために、本質に迫る課題設定について取り組み、問いを精査していけるよう意思統一を図っている。 ・ 年間を通じて、朝の短時間学習では、コミュニケーション能力を育むために、あいづちの仕方や話の聞き方等、各学年の発達段階に応じて系統立てた取組を行っている。 	
カ 評価の方法 <ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシート[別紙②] ・ 話合いの取り組み方 	
キ 成果 <ul style="list-style-type: none"> ・ これまで自分の普通を押し付けることにより、トラブルになることがあったが、自分とは違う個性を認めながら、自分も生かそうとしていることが様々な場面で見られるようになってきている。 	
ク 課題 まだまだ自分の狭い世界の範疇で物事を判断することも多くあり、学級内で関わり合えていない児童もいるため、相互理解が進んでいないことによる潜在的なトラブルの芽は感じている。	